

国立科学博物館

賛助会費を使った活動(2025年度)

日頃から国立科学博物館をご支援いただき、厚く御礼申し上げます。
皆様からのご支援により、2025年度も様々な博物館活動に取り組むことができました。
主な活動についてご報告いたします。引き続きのご支援を何卒お願い申し上げます。

青少年の自然科学等への興味・関心の向上

- 貴重資料のデジタルアーカイブ化、展示・活用
- クレマチスの絶滅危惧種調査と展示
- 「科学を文化に」実現に向けた新しい企画展の検討・調査等



地域博物館等と連携したイベント

- 富士五湖におけるマリモ類の学術調査と教育広報活動
- ESD for 2030達成に向けた学習プログラム制作
- 天産部標本(植物化石)の里帰り展示と講演等の開催等



標本資料の製作・受入・保存・修復

- 標本資料の製作
- 標本資料の修復
- 保存資料の充実や整備に関する取組



青少年の自然科学等への興味・関心の向上



寛政12年に奄美大島に出現したワニの図



パネル展示の様子

「鳥類魚類之御巻物 魚類之巻」 デジタルアーカイブの構築と活用

山科鳥類研究所が所蔵する江戸時代の貴重な古文書「鳥類魚類之御巻物」から、90点以上の海生無脊椎動物、魚類、爬虫類、両生類、哺乳類などの図が含まれる魚類之巻についてデジタルデータ化を行いました。

高精細データにより貴重な資料を傷めることなく調査・閲覧・展示が可能となり、そのうちワニの図を企画展「ワニ」のパネル展示に活用し、展示の目玉の一つとなりました。

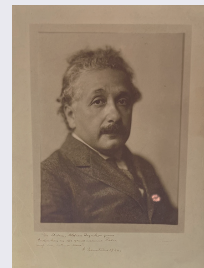
量子力学に関する展示品の制作、 デジタルアーカイブの構築

しばしば「難しい」「抽象的すぎる」とされる量子力学の理論を直感的・視覚的に理解するための模型や、アインシュタインなど理論構築に関与した物理学者の直筆資料の複製を制作し、企画展「量子の世紀」で展示しました。

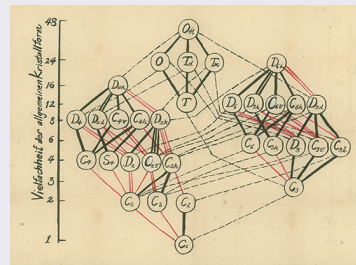
また、日本の結晶学の基礎を築いた物理学者・西川正治の資料について、理化学研究所や八王子市郷土資料館と3機関が連携したデジタルアーカイブを構築しました。今後、一般公開を予定しています。



企画展「量子の世紀」(上野本館)



アインシュタインの肖像写真(複製)



西川正治資料の画像データ



クレマチス園公開の展示案内



筑波実験植物園圃場の挿木増殖株

クレマチスの絶滅危惧種調査と展示

キンポウゲ科センニンソウ属の植物クレマチスについて、関東、東北、中部、中国地方などで自生地調査を行い、地域ごとに遺伝的に異なる個性をもつことが分かり、園芸品種として多様なだけでなく、その元となった野生種も多様であることを展示やセミナーにより発信しました。

また貴重な野生種を筑波実験植物園において増殖させるための試みも実施し「生きている標本」として展示もできるコレクションを得ることができました。

地域博物館等と連携したイベント

富士五湖におけるマリモ類の学術調査と教育広報活動

山中湖村教育委員会と共同で、山中湖のマリモの潜水調査に関する資料の解析と調査結果報告書の作成を行いました。調査によって、山中湖のマリモが温暖化の影響により絶滅の危機に瀕しつつあること、安定的な保全体制の確立が急務であることが分かりました。

また、山中湖村花の都公園フローラルドームふららのマリモの培養・展示に向けた協力をを行いました。



草木染の講習会



京都薬用植物園での視察・意見交換

天産部標本(植物化石)の里帰り展示と講演等の開催

当館が所蔵する天産部(旧東京帝室博物館に設置されていた動植物・鉱物などの自然科学系資料を扱う部門)の標本(植物化石)について、地域の博物館などと協力して産地や収集経緯に関する調査を進めました。その成果をもとに飯田市美術博物館や佐渡博物館、佐渡市役所などでの展示、講演会、化石産地見学会などを実施し、貴重な化石標本を採集された地で公開するとともに、地域住民にその意義を紹介しました。



調査結果報告書



調査で見つかったマリモ

ESD for 2030達成に向けた学習プログラム制作

ESD(Education for Sustainable Development)の達成に向けて、京都薬用植物園と共同で染料植物をテーマにSDGsを学ぶプログラムを制作しました。

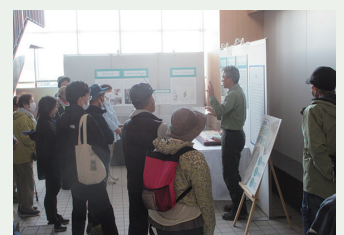
染料植物の中にも、ムラサキなど絶滅が危惧されている植物があります。全世代を対象に、天然染料と合成染料の利点や問題を比較しながら、染料植物を通じてSDGsを学ぶプログラムと解説用小冊子を制作しました。今後、筑波実験植物園のイベント等で実施・配付していく予定です。



飯田市美術博物館の展示の様子



産地見学会の様子



展示解説の様子

標本資料の製作・受入・保存・修復

標本資料の製作



チビフクロモモンガ(左)
キヌゲネズミ(右)
ルーセットオオコウモリ(奥)



レッサーパンダ(上)
ツキノワグマ(下)



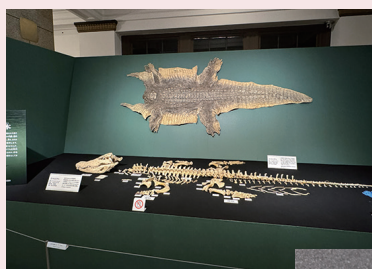
グレビーシマウマ全身骨格

毛皮標本・骨格標本の製作

都内周辺の動物園等から死亡した飼育動物を受け入れ、毛皮標本及び骨格標本を製作しました。グレビーシマウマのようなワシントン条約で輸入が規制されている大型哺乳類など、入手が困難な種が多数含まれ、当館の動物コレクションを質的に高める貴重な標本を多数加えることができました。

ワニ類標本の製作

「シヤムワニ全身皮革標本」(全長約3m)と、頭骨標本の断面を観察可能な「ナイルワニ頭骨樹脂封入標本」を製作し、企画展「ワニ」で展示しました。皮革標本は巨大なワニをどのような形で標本として残して研究や展示に活用していくか、標本の一形態としてわかりやすく伝えることができました。樹脂封入標本は、ワニが持つ「二次口蓋(口腔と鼻腔を隔てる骨の壁)」という特徴を実物標本で視覚的にわかりやすく伝えることに大きく役立ちました。



企画展での展示の様子



頭骨樹脂封入標本(断面)

標本資料の修復



企画展での展示の様子



保管のため分解状態の骨格標本

イリエワニ交連骨格標本の修復

当館所有の大型イリエワニの交連骨格の修復作業を行いました。破損していた部分を再構築し展示に耐えられる状態に復元・補強したほか、保管・輸送を容易とするため全体を3つに分解できる構造にしました。

この標本は、企画展「ワニ」の中で、ワニと他の爬虫類・鳥類との系統関係を紹介する展示で使用し、現生ワニの特異な系統的位置を紹介する象徴的な展示物の一つとなりました。